



# 森のなかま

2021年12月号

NO.162 (継続307号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 佐藤 恭平  
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

《森林技術部会主催》

## 間伐研修会

日時： 2021年10月23日(土) 9:00~15:00 晴れ

場所： 塚原ボランティアフィールド

講師： 森林技術部会 滝澤⑤ 石川⑫ 鈴木⑭ 岩田⑭

スタッフ： 江上⑬、大見⑮

参加者インストラクター：11名

(記 河西 静夫⑮ 写真 大見 文夫⑮)

今年度最初の間伐研修会は「インストラクターとして安全な間伐作業を実施できるよう、また指導できるよう、一連の間伐の流れを習得すること」を主眼としており、コロナ感染拡大により遠ざかっていた実践とのギャップを埋めるには絶好の機会でした。

塚原ボランティア林でオリエンテーション後、まず「森林塾」が間伐作業した場所に行き、作業後の「あるべき姿」を見学しました。そこでは、材は適切な長さに玉切りして等高線に平行に立木に掛けられ、土留めが効いて、かつ美しく、土砂の流出を防いでいました。できるだけ作業しやすい方向に伐倒するのが理想的であることも理解しました。

間伐研修では、実際に手順に沿って作業しながら、講師の方々に注意すべき点を指導していただきました。作業マニュアルにも詳細な手順は記載されていますが、実際に作業しないと体得し、他者に説明できないこと、マニュアルに書かれていない注意点、自分の作業時のクセの指摘(私は鋸が谷側に下がりやすい)、さらには講師秘伝のコツや心構えまで教えていただくことができ、大変有意義でした。



受け口確認(1)



受け口確認(2)

特に、お客さんがいる本番では絶対に避けたい失敗やトラブル処理

も、こうした研修では貴重な体験と学びの機会となります。筆者の班では、受け口が正確にできておらず(恐らくツルが不均一だった)、それを見逃したために伐倒方向が狂い、がっちりとはかり木になってしまいました。フェリングレバーで木を回して掛かり木を外そうと試みま

したが無理だと判断し、危険は伴いますが切り口から地面に落として引き倒す作戦に切り替えました。地面に落とすまでは成功したものの、落とした切り口が地面にめり込み、これを動かすにはフェリングレバーや間伐材を利用した梃子を活用する必要がありましたが、最終的に玉切り処理と整理を終えることができました。筆者はフェリングレバーを使うのも、間伐材を梃子に利用するのも初めてで、今後に生かせる貴重な経験となりました。

締めくくりの講評では活動内容や気づきを班毎に講師と受講生から報告。各班とも間伐の要点を確認し、有意義な研修会だったとのことでした。最後に部会長の岩田さんから「掛かり木になったときに最大限に力が発揮できる滑車の位置」について



掛かり木処理



玉切り処理

意識喚起があり、これは私の今後の課題です。それをここに記載するのは難しいので、ご興味ある方は

次回の研修会か、森林技術部会の活動に参加して直接お尋ねいただけたらと思います。

最後に、このような機会を設けてくださった森林技術部会の講師、スタッフの皆様に感謝いたします。ありがとうございました！

参加者名簿

No.	期	氏名	班	No.	期	氏名	班	部会	期	氏名	班
1	9	水津 敏	1	9	16	岡村 寛	1	講師	5	滝澤洋子	1
2	11	真貝 勝	2	10	16	加納裕美	2	講師	12	石川裕一	2
3	12	安井健人	3	12	16	永田裕徳*	4	講師	14	鈴木 淳	3
4	14	水野安則*	4					講師	14	岩田典義	4
5	15	石垣桃栄	1								
6	15	河西静夫	2					スタッフ	13	江上 徹	
7	16	中澤良夫	3					スタッフ	15	大見文夫	
8	16	中澤靖彦	4								

<森林技術部会研修会>

森林技術部会では、インストラクターのスキルアップを目的とした研修会を主催しています。今年度研修会予定

10/23 第一回 間伐研修 (今回の報告)

11/27 第二回 間伐研修

12/18 経路整備研修

上記のほか、チェーンソー研修会、手元ロープ作成研修会も予定されています。

森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

色とりどりの紅葉はどのように色づくのでしょうか、色によってその仕組みが違います。紅葉は夏の間太陽の光を浴びて精力的に光合成をしていた葉が役目を終えて散っていく最後の務めでもあるのです。夏から秋にかけて日照時間の短縮、気温の低下で光合成能力が低下し、葉緑体の変性、クロロフィルの分解が起こります。このような現象は一種の老化現象です。そして落葉の準備として葉柄の付け根に離層が作りだされ、その部分から葉は落葉していくのです。離層は葉から茎への糖などの養分の移動を妨げますので葉に過剰の糖分が蓄積されてきます。その糖が葉に含まれていたアントシアニンと結合して配糖体アントシアニンを形成し、それが紅い色のもととなるのです。



ところでこのアントシアニンは紅葉する前の緑葉にはほとんど含まれていません。老化に伴ってクロロフィルが分解し、葉の中での含有量が小さくなるのとは反対にアントシアニンの含有量は増加していきます。色づき始めた紅葉の色が鈍いのはクロロフィルの緑がアントシアニンを覆っているため、クロロフィルが完全に分解すると鮮やかな紅葉が現れるのです。

紅葉は昼夜の温度差が大きいほど鮮やかになると言われています。それは昼間、暖かければ、糖やアントシアニンの合成が進み、夜の冷え込みはクロロフィルの分解を促進するからです。

黄色の紅葉は葉に含まれているカロテノイドという色素によるものです。カロテノイドはニンジンの橙黄色のカロテンと同様な構造を持つ化合物の総称で、植物、動物、微生物に広く存在して黄~橙色のものになっています。炭素原子5個のイソプレンが2~6個集まると香り成分やヤニなどの樹脂成分になりますが、カロテノイドはイソプレンが8個結合した化合物で、植物体内での合成の起源をテルペン類と同じくしています。

黄葉の黄色のほとんどはカロテノイドの一種のルテインやビオラキサンチンによるものであることが知られています。ルテインはトウモロコシに種子や鶏卵の卵黄の色、ビオラキサンチンは三色すみれの黄色の花びらの色と言えば、その色を想像できることでしょう。

カロテノイドは光エネルギーを伝達する補助色素としてクロロフィルと同様に葉緑体に含まれています。ところが成熟した葉ではクロロフィルとカロテノイドの割

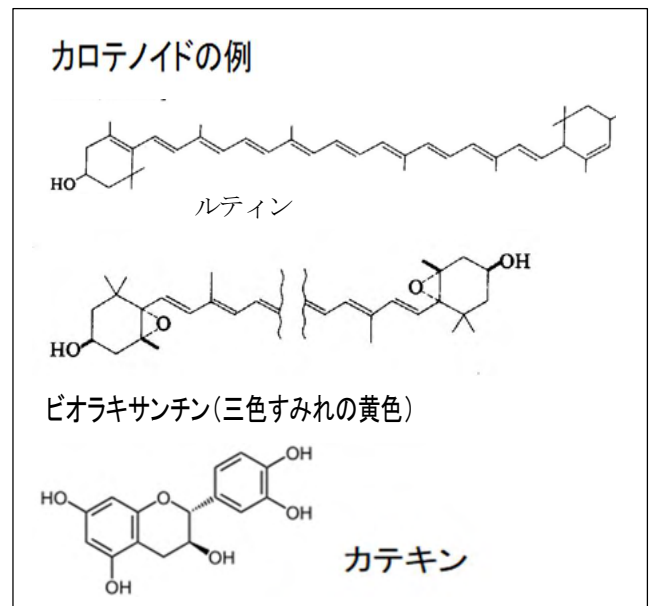
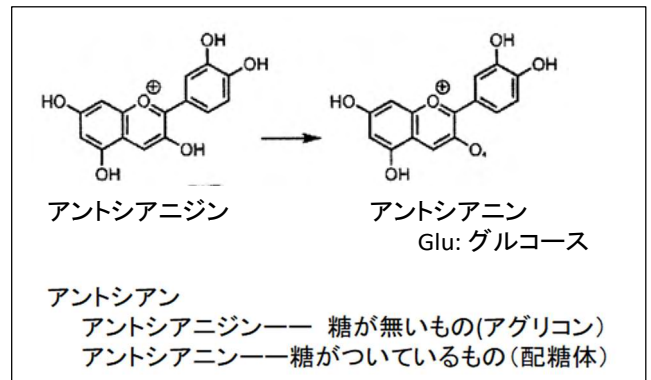
第42回 秋を彩る紅葉の仕組み

東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏

合はどんな植物でもほぼ8対1なのです。それで光合成が盛んな時期には存在比の大きいクロロフィルの緑の色が主体になります。秋になりクロロフィルの分解が始まるとカロテノイドの黄色が目立つようになるのです。

葉の褐色への色づきは葉に含まれている本来無色のカテキンなどの物質が葉の老化と共に酸化酵素の働きによって酸化重合して褐色~赤褐色に変色することによって起こります。

「かくばかりもみづる色の濃ければや 錦たつたの山といふらむ(後撰和歌集) 秋も終わりに近いころ冷え切る大気の中で揉みだされるようにして色づくので「揉み出づ」が変化して「もみぢ」になったとの説もあります。木の葉にとっては最後のひと踏ん張りが私たちに代えがたい憩いの場を提供しているのです。



(イラスト 広報部 加藤 優美 ⑮)

## 活動短信

今回の掲載はR3年10月9日から10月31日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

## 12月(師走)(旧暦11月霜月)の

## 二十四節気と七十二候

大雪 12/7 頃

本格的な冬の始まり。クマなど動物は、穴にこもり、サケが遡上する。

冬至 12/21 頃

ウツボグサ(薬草)の芽が出るころ。シカの角が取れて、麦が芽吹く

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明  
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。  
(できればWord、メール直筆でもOK。Excelはできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。)

## ◆ 活動団体・活動名 等

日付(できれば時間と天気も)

場所(例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参加者 人数

例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラスティみどり財団、看 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター① (○数字:期) 研:研修枠

以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

\*\*活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。\*\*

## ◆ 鎌倉市「緑のレンジャー・シニア」講座 (第6回)

日 令和3年10月9日(土)10:00~14:00 晴れ

場 鎌倉市 散在ガ池森林公園

参 12名(男性8、女性4)

スタッフ 鎌倉市公園協会2名

イ L安部⑤、水上⑬

活動内容は、「前回の講座で枝払い・間伐を行う箇所で選定し、テープ架けした林木の管理作業を行うこと」です。湖畔で、公園内での作業であること、高枝鋸・大ノコでの伐採等の注意点、特に“安全”に注目して説明。準備体操後、“のんびり小径”から現地へ。前回安部班、水上班に別れたエリアにおいて、最初に班の人にロープを利用する方法を説明。選木した方に受け口・追い口を行ってもらい、班の方でロープを引いて伐倒した。手順を理解していただき、伐倒木の整理後、各人の選木を2人組で処理した。枯れ木は固いこともあり、大ノコに苦労された。昼食後、ロープワー

クの講習。準備された練習用ロープで、よく使われる結び方を湖畔の柵等を利用して実践。皆さん興味を持たれ、熱心でした。最後に、間伐は危険が伴う作業で、安全な作業を再度話して終了しました。

(記 水上 正昭⑬)

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。


<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

## ◆ 横浜市立洋光台第一小学校 間伐体験

日 令和3年10月19日(火)10:00~13:00 雨のち曇

場 県立愛川ふれあいの村

参 先生11名、児童92名、計103名

財 かながわトラスティみどり財団、豊丸課長、古舘様

イ L 西出⑫、小野⑦、内野⑨、松山⑩、松本⑪、松永⑪、星野⑬、松石⑬、牧石⑭、堀口⑯

気になる天気予報でしたが、楽しみにしている子供達の事も考え、前日に学校と相談して間伐実施と決定しました。ところが翌日は朝から雨模様、仕方なく間伐は中止、雨天の予定に変更しました。

愛川ふれあいの村に集合して、始めの会の後、最初の活動は班毎に分かれてスプーン作りです。まず木製の取っ手の先端を小刀で少し先を細くして、削った部分をサンドペーパーで滑らかに仕上げます。出来上がったら、取っ手の先端の穴にボンドを入れてスプーンの先端を差し込めば完成です。簡単なようですが、後片付けも含めて1時間少々掛かりました。皆さん、出来上がったスプーンをかざして、笑顔で記念撮影です。



クラフト工作:スプーン作り



スプーン見本

二つ目の活動は、森林講話です。インストラクターが準備した資料に基づいて、森林の働き、森林整備の必要性、方法、道具などの説明をしました。

三つ目の活動は、外に出て、村内で自然観察です。カツラ、サンショウなどの葉の香りを楽しんだり、イロハモミジの種子を飛ばしたり、メタセコイアの大木を見上げて、特徴のある葉を観察したりしました。皆さん、木にまつわるいろんな話を聞いて知識を広めたと思います。終わりの会の後、皆さんは、手作りのスプーンと森林に関する知識をお土産に、ふれあいの村を後にしました。（記 写真 西出 健一⑫）



#### ◆ 横浜市立川島小学校 社会科 出前授業

日 令和3年10月21日(木) 10:30~12:30 晴れ  
場 横浜市立川島小学校 5年生教室(5-2 5-1)  
参 69名  
財 古舘様  
イ L小野⑦ 野牛⑧

10:20に学校正門前に3名集合、担任教師 波切先生の案内で校長室にて下畝校長にご挨拶し、コロナ禍による校外学習の中止と今後の対応等をお聞きする。

2組の教室へ移動して定刻10:45より野牛理事の挨拶後、社会科・森林に関する授業を小野が教師役で、森林の働き・森林をつくり育てるサイクル・日本の林業の抱えている課題等を黒板と持参の画像を適宜映してスタート。目に訴え乍ら、一方通行にならない様に質問を交え生徒との対話を心がけた。日本の林業の課題では、材木の値段が低迷している為、職業として魅力がない事を過去60年間の材価と大卒初任給の推移を数字で説明。豊かな森林とする為間伐が必要である事等は画像で説明。11:45より1組教室に移動して同様の授業を行う。2時限に亘る社会科の授業は拙い臨時教師役を 波切先生と活発で熱心な生徒の皆さんの助力を頂き全う出来たことにお礼を申し上げます。尚事前に取決めたとおり小野は現場活動時の服装でヘルメット、鉋、鋸を提示、杉・桧・松の小枝を持参して人工林の代表樹種である事を説明した

(記 小野 幸広⑦)

#### ◆ 第13回 秦野市植樹祭

日 令和3年10月23日(土) 9:00~12:00 快晴  
場 上小学校~新東名高速道路・新秦野IC  
参 秦野市民 111名  
市 秦野市環境共生課 越塚様他  
スタッフ 中日本高速道路(株)職員  
イ L西出⑫、柏倉④、湯浅⑪、徳岡⑪、松本⑪、松永⑪  
上宮田⑪、牧石⑭、飛田⑮、大友⑯、久次米⑯

青空が広がる晴天の下、100人以上の人が参加して植樹祭が行われました。式典は上小学校で行われ、高橋市長を初め、来賓の方々の挨拶、アルプホルンの演奏などの後、全員による記念撮影はドローンによるもので、時代の流れを感じました。

式典会場と植樹会場は30分程の距離があり、10班に分かれて出発しました。植樹会場は現在建設中の新東名高速道路、新秦野インターチェンジの「のり面」です。



高速道路のり面の植樹会場

工事現場の入り口でヘルメットを装着し、班毎に植樹場所へ移動して、中日本高速道路(株)の係の方から説明を受けて、いよいよ植樹開始です。苗木は、秦野で採取してドングリなどから育てた、コナラ、シラカシ、キブシ、ヒサカキなど 280本程で、一人2~3本を植えました。大人に混じって小学生も楽しそうに植樹をし、木が立派に育つように願いながら会場を後にしました。

秦野市は湧き水など、水が豊富なことで有名ですが、上小学校への帰る途中にある「生き物の里」では、地元の活動グループが取ったドジョウ、ザリガニなどの展示と係の人の説明に小学生は興味津々でした。楽しいひと時を過ごして、上小学校に戻って解散しました。

(記 写真 西出 健一⑫)

## ◆ 第11回 県民参加の森づくり 竹林整備

日 令和3年10月24日(日) 9:30～12:00

場 南足柄市内山(21世紀の森)

参 37名(欠2名)

財 大木様

看 佃様

スタッフ 21C職員 折井様、野村様

イ L 辻村⑨、真貝⑪、大見⑮、佐藤⑤、柏倉④、相馬⑤、末原⑮、石川⑫、足立⑯、齋藤⑧、牧石⑭(計11名)

8:10 予定よりも早めに事前に打ち合わせが始まり、本日の予定の説明が統括リーダーよりなされる。当初予定し



ていた場所とは異なる場所での作業になる旨の連絡とその目的が伝えられる。また地形についても説明がなされ、参加者への事前の周知すべき内容が伝えられた。

9:00 受付を開始する。検温、コロナシステムの案内、資料配布、参加者の確認が始まる。

(全体では35名の参加で10人程度が初めての参加という構成で欠席者は2名)

9:30 オリエンテーションが開始。絶好の秋晴れの中、皆さんは明るい表情で話を聞いておられたのが印象。注



意事項として安全第一で作業することを強調する。斜面がきついところは少ないが、転倒の注意喚起がなされた。また竹の上は滑りやすい旨、具体的な説明がなされた。準備運動を終え、1班から順に作業場所へ移動する。作業場所へは10分ほどで到着する。

今回は急遽場所の変更となり短時間での下見及びエリアの割り振りがされた結果、滞りなく進む。3cm以上の竹

は残して、径路を歩きやすくすると同時に森の中を明るくするとの目的を共有し作業に入る。

細い竹のため、個人での作業となる為に近接作業に注意する。ある程度竹を切りスペースができたので、そこで作業を行うように誘導し安全な足場で作業することで予期せぬ怪我をせぬように注意を払った。連続作業にならないように適宜休憩を挟むよう声かけを行う。

11:30 作業終了。径路の見通しがよくなり森が明るくなったことを各リーダーが参加者の皆さんに成果として言葉で伝える。反省会では、細い竹の枝払いには剪定鋏があ



った方がよかったと全ての班から要望として上がっていた。今後は検討の余地があるが、複数の道具を持つことで紛失のリスクもあることを鑑み、最適な道具の選定が今後は必要になると思われる。

最後に、5班では明るくなった竹林で記念撮影をされたと聞いており、チームでの活動が成功した良い例となる。

今回の活動は怪我もなく大きなヒヤリハットもなく、無事終えることができた。秋晴れの中皆さん思い思いの場所で昼食をとり、自由解散となる。(記 写真 足立 雅典⑯)

## ◆ 横浜市立坂本小学校 水源林観察ツアー

日 R3年10月28日(木)10:00～12:00、晴れ

場 愛甲郡愛川町 愛川ふれあいの村

参 小学4年生3クラス生徒107名、

教師7名、カメラマン1名

財 なし

イ L⑪松本、④柏倉、⑤森本、⑦小野、⑨内野、⑩松山、

⑫西出、⑫永松、⑬星野、⑭牧石、⑮石垣

⑯岡村 12名

何年ぶりの愛川ふれあいの村の自然観察路を使用した活動。過去には台風での経路荒廃、今まではコロナ禍での使用不可。久しぶりの復活活動第一号です。10/9に先生とインストラクターで1回目の下見を行いました。経

路は少し邪魔な草や笹、枯れ枝、細い倒木等がありました。後日に行く全員インストラクターの下見で片付ける事ができる程度でした。そして、ヤマビルですが、無防備の先生が3匹に血を吸われパニック気味でしたが、逆に本番時の生徒への対策装備に考慮をしてくれると思いました。事実、本番では生徒達は完全な対策で衣服にくっ付いた子は大勢いましたが、吸血された子はいませんでした。

9:20～9:50 インスト打合せ。久しぶりのハンズフリースピーカーマイク装着の時間を多めにとった。

10:00～10:20 はじめの会、インスト紹介等、班毎に各インストから説明／講話

10:25～11:40 自然観察路、村内を踏歩、観察

11:50～12:05 終わりの会、終了後は生徒とはお別れ。生徒は第2ファイアー広場で食事。

コロナ禍で全員マスクをしての上り／下りがある観察路なのですが、長いマスク生活で、子ども達はすっかり生活スタイルに抵抗なく順応しているようです。順応にやや戸



惑っているのは大人たちでしょうか。

4年生は『水はどこから』の学習でみどりのダムや水源林の事を学んでいるのですので、宮ヶ瀬ダム眺望、人工林／広葉樹の違い、台風で倒れたスギの巨木、木喰い虫被害にあっているコナラの木、カツラの木の香しい匂い等、興味を引くように各インストラクターは各自工夫をしていました。終わりの会では、子供達から種の形／移動に植物の工夫がある事、水源林は壊してしまうと復活するに大変な時間がかかる事、ヤマビルを初めて見た等の発言がありました。とても、素直な生徒達であるとインストラクター全員の感想でした。（記 写真 松本 保⑩）

#### ◆ やどりき事業部 動物班調査活動

目 10月31日(土) 曇りのち雨

場 やどりき水源林

参 4名(古館⑬・國弘⑭・久次米⑯・波多野⑰)

11月20日に予定されているムササビ夜間観察に向けて、観察場所候補の3カ所の樹洞を観察しました。いずれも樹洞周辺の木の樹皮がささくれていることから、ムササビ等が使用している可能性が高いと判断、次回の観察場所と決定しました。その他の哺乳類の痕跡として、アナグマの糞、シカの糞を確認。

鳥類は賑やかに鳴いており、カラ類・カケス・ジョウビタキ・ウグイスなどの声が聞こえました。昆虫等では、トラマルハナバチ・イシサワオニグモなどが観察できましたが、今シーズンの昆虫の活動はそろそろ終盤だと感じました。また、林道を散策中に *Beauveria bassiana* (ボーベリア バシアーナ) に侵されたヤマトフキバツタと思しき個体を発見しました。

秋の花ではリンドウ・ズソウカンアオイ・コウヤボウキ・キッコウハグマ・セキヤノアキチョウジ、キノコではツチグリなどが観察できました。

曇り模様で昼から降雨となり生憎の天候でしたが、充実した活動となりました。



やどりき大橋先の樹洞  
幹の両脇に上がり降りの跡があります。



ヤマトフキバツタに寄生する *Beauveria bassiana*  
(ボーベリア バシアーナ)

(記 写真 波多野 慶⑱)

ひも自然も丹沢

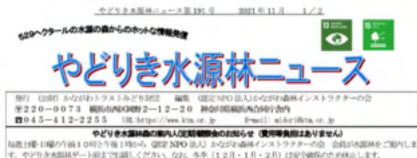
丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会の  
ホームページをご覧ください。http://www.tanzawasaisei.jp/

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

案内人は、12月～2月までお休みになります。

「やどりき水源林ニュース」



上の写真は本水源林のどこでしょうか。実は、車大橋のふもと、管理橋下あたり、自然環境の悪化です。昔はこんな風景でした。

地盤沈没によって自然に崩壊したといわれる2019年10月の台風19号、やどりき水源林も大変な被害を受けたことを覚えていらっしゃる方も多いかもしれません。それでも、後の復旧工事は2020年度末には完了し、本水源林は自然の恵みの賜として再度開放されました。

市民の電話で「やどりき」のあつちを戻りました。復旧工事が終わった本水源林の広場。

<http://www.forest-kanagawa.jp/4field/news/news191.pdf>  
11月号が発行されました。

「攪乱! から、やどりき水源林は元気を取り戻しました!」です。

●問合せ:

(公財)かながわトラスみどり財団

TEL: 045-412-2255

FAX: 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

E-mail: [midori@ktm.or.jp](mailto:midori@ktm.or.jp)

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>

(HP担当: 井出恒夫)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: [happy\\_kumakuma711@icloud.com](mailto:happy_kumakuma711@icloud.com)

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: [kshinrin\\_pr@icloud.com](mailto:kshinrin_pr@icloud.com)

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先: 080-5477-2206

[kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp](mailto:kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp)

【別冊】小林 照夫 (11月号から)

Mail: [kobayashi@ts-pocket.jp](mailto:kobayashi@ts-pocket.jp)

原稿は随時受け付けています。

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の

方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会

宛まで2000円をお振込み下さい。振替

用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から

12回/1年間お届け致します。

編集後記

★今年の11月は小春日和が続いて過ごしやすい毎日ですが、いつの間にか師走が来てしまいました。皆さんに多大な迷惑をお掛けした病も、順調に回復しておりますが、未だ現場に辿り着けない体力で情けない

(泣)。これからリハビリに務め、年明けからは再始動したいと思っております。覚束ない足取りですが、宜しくお願い致します。(竹内)

★寒くなると自作のロケットストーブとダッチオーブンを使用して庭で石焼き芋をつくるのですが、

ロケットストーブは燃焼効率が良いのでほとんど煙を出さずに美味しい焼き芋を作ることができます!!

(阿藤)

★油断大敵「!!」「油断」は気をゆるめること。油断は大失敗を招くから、どんなものより恐るべき敵として気をつけよ、という意。

コロナも感染数が少なかったといっても注意を少しでも怠れば、また振り返し取返しが無くなります。十分に気をつけましょう!! (松本)

★この秋の涸沢のナナカマドの紅葉観賞は時期のチョイスを誤り惨敗を期してしまった。リベンジを図りたく「そうだ京都へ紅葉を見に行こう」と思い立ち出かけ、期待以上の鮮やかな紅葉を堪能できた。

なぜ京都の紅葉は見事なのか。京都はイロハモミジだけで14種類にもなるとか。最低気温が8度を下回ると黄や赤に変化し始め、5、6度になると一気に色づきが濃くなると言われる。それだけなら、京都に限らずともと思えるが、京都は三方山に囲まれた盆地で寒暖差が激しく、また高い建物が少ないことから十分な日照が得られ更には多くの川がもたらす水分環境など好条件によるものだそう。また、寺社の多い京都は紅葉を愛でることへの関心度が高いという歴史的文化的成果だとも言われている。(中澤)

イベント紹介



今年度は開催する予定です。

日時 2022年1月15日～2月6日 9:00-16:00

入場料 500円

問い合わせ先

まつり事務局 (松田町役場観光経済課)

電話番号: 0465-83-1228

編集人: 黒川 敏史

広報部: 吉田郁夫 松本保 笠原かずみ 加藤優美 阿藤壽孝 竹内明彦

柳澤千恵美 小林照夫 武田昭典 中澤良夫

支援: 大原正志 江頭淑子